

第一編

松元町の概観

第一章 松元町の自然

第一節 位置・面積

一、位置

松元町は、薩摩半島のほぼ中央に位し、東経一三〇度二六分、北緯三一度三六分に位置している。東は鹿児島市、南は吹上町及び日吉町に、西北は伊集院町に接して

県内における松元町の位置



いて、鹿児島島の中心から約一三キロ、車で約三〇分のところにある。松元町役場所在地は、松元町上谷口九八七番地である。

二、面積

本町の総面積は、五〇・四二平方キロメートルで、土地区分は昭和五十五年四月策定の松元町総合振興計画によると、次の通りである。

区分	面積 (ha)	比率 (%)	区分	面積 (ha)	比率 (%)
農用地	一、〇八五	二・一五	道路	一八七	三・七
森林	三、四六二	六・八六	宅地	一一四	二・三
原野	九〇	一・九	その他	五一	一・〇
河川等	五三	一・〇	計	五、〇四二	一〇〇・〇

第二節 地勢

一、地勢

本町の地勢は、東西に七・四キロメートル、南北に一一・〇キロメートルでほぼ三角形をなし、北部から中部にかけては無数の丘陵と数多くの沢から成り、その丘陵は高原台地で大部分が畑地と林野である。沢をなす流域は山田・迫田を形成している。台地は概ね標高一五〇メートルから二〇〇メートルに点在している。南部は標高三〇〇メートル級の山岳と溪谷から成り、山林と溪谷の小流は山田・迫田を形成している。

土地は、全町のほとんどが火山灰土壌によるシラスで、一部に粘土質土壌がシラス断層となり、湿田及び半湿田が大半を占めている。砂質壤土は雨にもろく、豪雨

による土砂崩れの災害を受けやすい。松元町は高い山もなく、大きい川もない無数の丘陵と沢や溪谷から成り立った地勢といつてよい。おもな山地と河川は次のとおりである。

地		山	
名称	位置	名称	位置
八の久保	春山	白石岡	春山
へご岡	三三六・九		二四四・六
宮の山	一九二・三		
お伊勢岡	入佐		
石谷	二二九・三		
標高(m)			
一八二・四			

河川		川	
水系名	河川名	水系名	河川名
神の川	下谷口川	神の川	石谷川
福山川	三・〇	永吉川	永吉川
上谷口川	二・〇	永田川	永田川
鷺ノ巢川	二・八	永田川	〃
流路延長(km)		流路延長(km)	
三・九		二・一	
三・〇		三・九	
二・〇		二・九	
二・八		一・五	

第三節 気象

一、気候の概要

中高原地区であるため、気温は比較的低く、年間平均気温は摂氏一六・四度、年間降雨量は二、五〇〇mm程度となつている。気温は七月が摂氏二六・七度で最も高く、最低は一月の摂氏五・一度で、初霜が十月下旬、晩霜が四月中旬である。この晩霜は時として、本町の基幹作物の一

つである一番茶に大きな被害を与えることがある。又降雨は六・七・八月に集中し、台風襲来と重なることから住民に直接・間接に与える被害は大きいものがある。

二、気象被害

気象被害には風害、塩害、雨による洪水、がけ崩れ、雪害、霜害、異常気象による冷害、旱魃など、いろいろあるが、本町の場合は台風と梅雨期の大雨による被害が最も大きい。特に本町に限らず全県を挙げて台風禍は大きな被害を与えている。終戦後の主な台風は、資料編に収めてある。

第二章 人口と自然の利用

第一節 人口

一、人口の推移

昭和五十年年度の国勢調査によると、本町の人口は八、六一六人、内男四、二五五人、女四、四九一人で、世帯数は二、七二一戸、人口密度は一七二人である。一世帯構成人員は、昭和二十五年の四・八人をはるかに下回り、三・四人になつており、全国平均に近い数値を示している。

最近10年間年度別月別平均温度表

気温℃ 朝9時

年度\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和 49	5.7	6.9	9.5	15.0	19.4	20.3	24.6	26.5	22.5	19.3	12.8	9.4
" 50	5.7	6.6	9.9	14.9	18.2	22.8	24.5	26.5	21.2	24.2	14.8	8.4
" 51	4.6	9.6	9.7	16.1	19.5	21.4	24.2	27.0	21.7	19.0	11.2	9.3
" 52	4.0	3.6	10.7	15.7	17.7	22.1	26.6	26.8	25.0	21.7	15.9	9.3
" 53	6.9	6.7	11.2	14.3	19.4	22.4	27.5	27.4	25.4	22.1	17.5	12.4
" 54	10.4	9.2	10.1	14.8	19.0	23.6	26.7	28.2	25.3	20.5	13.4	10.4
" 55	5.7	5.7	11.3	15.1	19.4	24.4	23.4	26.6	24.5	19.6	15.7	8.2
" 56	4.5	7.7	11.5	15.0	19.1	23.2	27.2	27.5	24.7	20.1	13.4	9.2
" 57	6.4	7.7	12.7	16.3	20.9	23.7	26.3	27.5	23.7	20.4	16.1	9.9
" 58	6.4	7.0	10.8	17.1	20.8	22.4	26.9	27.9	25.4	19.5	13.3	8.7

最近10年間年度別月別平均雨量表

(mm)

年度\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和 49	50.8	51.4	119.9	158.9	166.2	271.0	252.2	72.1	185.2	171.5	66.3	164.5
" 50	212.8	113.0	116.5	286.4	119.0	248.4	181.1	88.3	180.4	152.6	111.7	113.6
" 51	58.6	166.1	183.6	243.7	290.4	496.0	536.5	102.8	447.6	189.6	75.4	107.9
" 52	41.9	106.7	345.8	361.2	238.5	655.6	171.7	174.4	198.9	12.2	85.4	56.1
" 53	149.2	102.9	76.0	184.1	219.1	562.0	297.5	245.8	199.9	65.2	71.2	85.1
" 54	130.8	67.1	233.0	227.0	148.2	312.8	317.8	226.8	204.5	208.0	146.4	65.6
" 55	136.9	61.6	219.3	160.7	502.2	381.4	506.9	198.7	318.0	250.8	20.8	132.7
" 56	64.9	97.6	320.9	260.5	166.4	226.0	309.1	121.1	125.7	133.8	165.5	17.0
" 57	93.5	177.3	138.1	176.1	236.4	195.1	445.8	208.8	154.5	39.3	209.3	48.9
" 58	107.5	102.6	339.4	391.3	348.2	654.1	295.4	309.1	394.2	98.2	52.8	33.7

最近10年間年度別月別平均湿度表

(%)

年度\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和 49	53	52	61	69	75	78	80	75	80	80	71	71
" 50	62	60	66	77	67	68	84	79	80	4	69	68
" 51	62	64	66	79	76	79	74	76	71	73	69	76
" 52	63	68	71	67	71	74	73	72	69	66	56	72
" 53	72	64	63	58	58	83	79	80	76	69	55	64
" 54	77	73	71	68	64	74	84	77	71	68	70	72
" 55	73.3	58.5	70.1	57.5	61.2	65.2	66.9	63.0	60.7	55.0	71.3	74.9
" 56	69.0	72.2	70.3	67.2	65.0	69.0	73.2	71.7	71.1	68.0	61.4	
" 57	73.9	70.6	71.7	69.2	71.0	73.4	77.9	76.5	72.6	57.7	71.0	65.0
" 58	64.0	61.7	63.9	64.2	58.5	65.8	62.3	59.2	51.5	47.5	45.3	40.9

(表1表) 松元町の国勢調査結果と対50年比

区分 調査年	世帯数	対50 年比	人					
			総数	対50年比	男	対50年比	女	対50年比
昭50.10.1	2,200	100.0	7,211	100.0	3,366	100.0	3,845	100.0
昭55.10.1	2,711	123.2	8,616	119.5	4,125	122.5	4,491	116.8
昭60.10.1	3,028	137.6	9,495	131.7	4,546	135.0	4,949	128.7

(第2表) 県下人口増加市町村10傑

順位	昭和45～昭和50		昭和50～昭和55		昭和55～昭和60	
	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率
1	鹿児島市	13.3%	始良町	21.8%	国分市	15.5%
2	始良町	11.6	松元町	19.5	吉田町	12.9
3	加治木町	10.1	国分市	11.9	伊集院町	10.7
4	溝辺町	7.6	鹿児島市	10.6	松元町	10.2
5	国分市	6.5	加治木町	9.3	始良町	10.0
6	隼人町	5.8	隼人町	8.9	川内市	8.8
7	名瀬市	4.1	鹿屋市	7.8	隼人町	8.1
8	指宿市	2.8	吉田町	7.1	溝辺町	6.8
9	鹿屋市	1.4	伊集院町	6.3	樋脇町	5.6
10	伊集院町	1.4	川内市	6.2	鹿児島市	5.0

日置郡誌（大正十一年十一月、日置郡役所刊）によると、大正十年十二月末現在の本籍戸数は一、三三七戸、本籍人口は男四、六九〇人、女四、七三二人、計九、四二二人、現住人口は男三、八五八人、女四、〇一九人、計七、八七七人となっている。本籍人口は一戸当たり平均七・〇人、現住人口は一戸当たり平均五・五人で、一戸当たり平均一・五人が町外に居住していたことになっている。他市町への出寄留を数で示すと、男七四九人、女七四三人、計一、四九九人、他に軍人、国外居住者二〇五人、合計一、七〇四人が村外に居住したことになる。それから六十年経過した昭和五十五年と比較してみると、戸数（大正十年は戸数、昭和五十五年は世帯数）は約半分であるが、人口は七百余人以上だけである。このことは核家族化の現状をはっきりと示している。

戦後の急激な人口増は、復員・引揚者の帰村によるものであるが、昭和二十年の一〇、〇六八人をピークに漸次減少を辿っていたが、昭和五十一年以降再び上昇を見ようになった。昭和五十五年国勢調査では、昭和五十年に比し、一、四〇五人の増を示し、増

(第3表) 人 口 動 態

年 別	自 然 動 態			社 会 動 態			増 加 人 口
	出 生	死 亡	増 減	転 入	転 出	増 減	
48	93	92	1	583	479	104	105
49	94	76	18	563	570	△ 7	11
50	91	60	31	587	549	38	69
51	89	65	24	548	430	118	142
52	82	60	22	663	407	257	279
53	87	72	15	783	448	335	350
54	92	66	26	814	451	363	389
55	103	78	25	735	466	269	294
56	118	69	49	662	635	27	76
57	120	64	56	654	502	152	208
58	126	67	59	562	561	1	60

※59年度版「町勢要覧」による。

加率一九・五割で県下では始良町の二二・八割に次いで第二位の増加率で、第三位国分市の一一・九割、第四位鹿兒島市一〇・六割と続いている。

五年ごとに行われる国勢調査は、本町諸政策の基礎数字として各種の行政推進に使われる、いわば本町の方向を見出す極めて大切な調査資料である。まず住宅問題、

(第4表) 人 口 と 世 帯 の 推 移

※昭和59年度版「町勢要覧」による。

年 次 別	世 帯 数	人 口			人 口 密 度	一 世 帯 当 た り	備 考
		男	女	計			
大正9年	1,718	3,407	3,541	6,948	137	4.0	国 勢 調 査
〃 14年	1,676	3,428	3,393	6,821	135	4.0	〃
昭和5年	1,631	3,574	3,557	7,131	141	4.3	〃
〃 10年	1,647	3,569	3,539	7,108	140	4.3	〃
〃 15年	1,556	3,543	3,571	7,114	141	4.5	〃
〃 20年	1,966	4,581	5,505	10,086	198	5.0	〃
〃 25年	2,003	4,755	4,981	9,736	193	4.8	〃
〃 30年	1,987	4,463	4,681	9,144	181	4.6	〃
〃 35年	2,001	4,089	4,353	8,442	167	4.2	〃
〃 40年	1,980	3,695	3,968	7,663	151	3.8	〃
〃 45年	2,053	3,443	3,798	7,241	144	3.5	〃
〃 50年	2,200	3,364	3,848	7,212	143	3.3	〃
〃 55年	2,717	4,127	4,489	8,616	171	3.2	〃
〃 56年	2,809	4,320	4,797	9,117	181	3.2	住 民 基 本 台 帳
〃 57年	2,871	4,381	4,877	9,258	184	3.2	〃
〃 58年	2,923	4,406	4,934	9,340	185	3.2	〃
〃 59年	2,964	4,559	4,892	9,451	187	3.2	59年9月末現在
〃 60年	3,028	4,546	4,949	9,495	188	3.1	国 勢 調 査

と人口

(昭和59年9月末現在)

地域公民館	世帯数	男	女	計
1 折尾	279	452	465	917
2 上谷口	342	548	591	1,139
3 福山	227	342	392	734
4 内田	241	397	424	821
5 直木	325	508	552	1,060
6 入佐	156	200	233	433
7 春山	398	585	628	1,213
8 四元	142	227	266	493
9 平谷	55	60	71	131
10 仁田尾	475	794	816	1,610
11 石谷	324	447	468	915
合計	2,964	4,559	4,896	9,455
自治公民館	世帯数	男	女	計
1 折尾1組	63	88	102	190
2 折尾2組	63	100	103	203
3 折尾3組	78	139	124	263
4 折尾4組	75	125	132	257
5 田原春	53	91	98	189
6 柿元	58	89	99	188
7 松元上	61	95	89	184
8 松元下	50	86	85	171
9 入田本坊	61	104	120	224
10 井之上住宅	23	35	42	77
11 内田上	25	43	50	93
12 内田中	28	43	52	95
13 松元団地	70	121	116	237
14 内田下一	46	67	78	145
15 内田下二	44	75	77	152
16 内田下三	19	32	35	67
17 内田外	9	16	16	32
18 福山上	104	169	184	353
19 福山中	67	100	123	223
20 福山下	56	73	85	158
21 前田	36	48	58	106
22 下直木	78	117	131	248
23 池田	36	58	54	112
24 向原	28	43	4343	86

交通網の整備、防災対策、上水道の整備などの問題を解決していく上で極めて大事なものである。

二、将来への展望

最後に将来の展望について少し触れておきたい。人口増の原因をみると、自然増から社会増型へと移行してき

ている。小規模団地などの造成により町外からの転入者が多くなっている。嘱託区別にみても、過半数を町外からの転入者で占める折尾地区、仁田尾地区、ここ数年横ばいの地区などあり、今後嘱託区再編成の問題やその他いろいろな問題が生じてくることが予想される。

(第5表) 公民館別世帯数

自治公民館	世帯数	男	女	計
25 直木住宅	29	50	57	107
26 山 蔭	62	103	114	217
27 直木西	18	30	28	58
28 東島寺	26	41	43	84
29 山 方	27	40	42	82
30 小 中 原	21	25	30	55
31 平 谷	23	25	29	54
32 田ノ頭	32	35	42	77
33 上ノ前	25	31	39	70
34 上ノ東	32	39	47	86
35 上ノ西	17	29	34	63
36 大 下	40	46	53	99
37 下 原	32	43	48	91
38 山木場	4	4	4	8
39 平木場	2	2	2	4
40 高 田	4	6	6	12
41 上 床	85	116	122	238
42 棧 敷 原	84	127	138	265
43 馬 場	112	176	191	367
44 寺 脇	69	97	107	204
45 下 り 山	48	68	70	138
46 四 元 前	42	70	85	155
47 四 元 後 中	42	71	84	164
48 四 元 後	49	77	87	19
49 篠 原 堀	9	9	10	19
50 仁 田 尾 前	119	211	200	411
51 仁 田 尾 中	135	205	231	436
52 仁 田 尾 後	112	192	188	380
53 仁 田 尾 団 地	109	187	197	384
54 石 谷 東	35	46	60	106
55 松 之 尾	65	112	105	117
56 石 谷 西	31	57	54	111
57 六 カ 所	60	87	99	186
58 石 谷 下	29	42	44	86
59 新 村 上	24	41	31	72
60 新 村 下	32	44	45	89
61 健 生 苑	48	18	30	48
合 計	2,964	4,559	4,892	9,451

又五十万都市鹿児島市を中心に、その近郊に人口が集中する状況が著しくなっているが、本町も鹿児島市近郊町として例外ではない。住みよい環境と交通網の整備による好条件から今後も増加の傾向を続けるものと思われる。しかし、無計画に放任しておくべきものではないの

で、町としても昭和五十五年四月、「松元町総合振興計画」が策定され、人口問題も適切に処理されることになっ

第二節 自然の利用

一、土地の利用

本町の一八・四割を占める農用地については、農業振興地域の設定、あるいは農用地として農地法、その他法規制があるので、宅地その他の用途に転用される割合は比較的少ない。森林並びに原野は六五・一割を占めているが、南部地区を除いて一部で宅地開発の対象とされ、

長期的経済性、財政的保有、あるいは森林のもつ多面的な機能が失われつつある。宅地は四・四割を占めているが、鹿児島近郊という立地条件が本町に小規模宅地開発という形で表面化してきている。宅地開発は上伊集院駅を中心に鹿児島市界に広がりつつあることは、交通の利便と鹿児島市の市街化調整区域からの締め出しの結果といえる。昭和四十五年から五十五年までの十年間に折尾地区で約二倍、仁田尾地区で約三倍の人口増が見られるが、この傾向は当分続くものと見られる。本町の地勢

が台地と沢、あるいは山地と溪谷といった起伏の激しいところであるため、住居地域、農業地域、商業地域、工業地域といった具合に利用区分することには困難がある。

土地価格の高騰は土地の有効利用を阻害する要因となっている。特に道路拡幅改良、農用地の拡大、公共施設の整備計画などにその影響が大きい。又労働人口が一次産業から二次、三次産業へ移転する中で、作目の粗放

(第1表) 土地利用の状況目標

区 分	現 況		目 標	
	54 年	構成比	59 年	構成比
① 農 用 地	967	19.2	932	18.4
田	347		341	
畑	620		591	
採草放牧地	—	—	—	—
② 森 林	3,280	65.1	3,212	63.7
人 工 林	1,699		1,695	
天 然 林	1,406		1,342	
そ の 他	175		175	
③ 原 野	90	1.8	70	1.4
④ 水面・河川・水路	53	1.0	54	1.1
水 面	1			
河 川	27			
水 路	25			
⑤ 道 路	87	1.7	102	2.0
県 道	19		20	
町 道	46		59	
農 道	16		17	
林 道	6		6	
⑥ 宅 地	146	2.9	220	4.4
住 宅	141		205	
工 場	3		8	
そ の 他	2		7	
⑦ 所 他	418	8.3	452	9.0
合 計	5,042	100.0	5,042	100.0

(第2表) 松元町地籍調査事業実施状況

区分 年度	実施地域	面積 ㎡	筆数 筆	事業費 千円
47	上谷口一部	4.84	5,045	4,552
48	上直木・上佐一部	4.52	3,717	5,560
49	入佐一部	3.02	949	5,120
50	直木一部	3.01	3,472	4,314
51	〃	2.85	1,181	4,160
52	〃	3.39	947	6,500
53	上直木・上佐一部	4.63	3,258	8,050
54	直木・直春	4.48	3,030	9,220
55	〃	4.57	1,596	7,600
56	〃	3.96	510	6,800
57	福石山二部	4.20	3,600	12,000
58	石谷一部	4.00	4,440	12,300
59	福石山二部	3.80	4,706	19,660

※昭和59年度町勢要覧に據る。

栽培、休耕地、荒廢地、山林転用など、農業の生産基盤である農地が減少しつつあるのが実情である。

土地は限られた資源であり、生活及び生産のための基盤である。また土地利用を適性かつ合理的に進めていくことは、町政発展の基本的事項である。このことから本町のもつ特性を的確に見極め、十分な有効利用を図るため、本町としての具体的な計画を策定し、調和のとれた土地利用を推進するよう努力されている。

目下国土調査計画に基づく地籍調査事業が進められているが、この事業は経済基盤、生活基盤の基礎である。

土地の実態を科学的かつ総合的に把握し、開発、保全及び土地の高度利用に資するため、昭和四十七年度から実施されているが、国の財政的な理由から国庫補助が大幅に圧縮され、当初の計画どおりに執行されなかったが、本町の場合、全国の進捗状況に対し極めて良好な実績を示し、近く完了の予定である。この調査によって正確な地籍が確認されることになる。町内の地籍調査事業の実施状況を示すと、第2表の通りである。

二、水の利用

1 水道用水

本町では住居の大部分が台地にあるため、飲料水は沢又は溪谷において共同井戸から運搬しなければならなかった。家事労働の一つの大きな分野を占めていた。昭和二十九年九月、四元地区を皮きりに町簡易水道が町内九地区に開設され、ほかに民営による飲料水給水施設が一カ所、地区運営が一カ所、その他四、五戸共同利用による給水施設が数カ所あり、水汲み労働の辛さは昔語りとなった。現在の簡易水道の水源は、ボーリングが四カ所、湧水による集積が五カ所、他は流水又は深井戸である。福山、内田上、平田地区の浅井戸、流水による供給施設は環境衛生的に見て改善すべき点を残している。

本町では、地勢的に分水嶺にあたるため、揚水するだ

(第3表) 簡易水道給水状況

給水年度	四元		入佐		直木		松ヶ迫		春山		石谷		松元		東部		折尾		計	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
54	155	490	153	474	325	1,024	33	108	332	1,075	157	508	450	1,452	502	1,603	-	-	2,107	6,734
55	155	481	153	442	330	1,074	33	105	292	918	159	505	464	1,449	622	1,820	-	-	2,208	6,794
56	155	478	154	434	322	1,007	34	102	354	984	160	462	459	1,344	603	1,802	-	-	2,241	6,613
57	156	479	153	427	323	1,023	31	90	311	892	166	504	465	1,375	625	1,923	249	766	2,479	7,479
58	157	482	152	430	335	1,063	31	102	319	926	168	509	485	1,379	639	1,997	254	773	2,540	7,661

※昭和59年度版「町勢要覧」に據る。

けの河川がなく、利用ダムや上水道施設には、大きな経費を要するし、簡易水道だけでは人口増に対し給水能力に限界があり、今後の課題として残されている。

2 農業用水

地勢の項で述べたように、本町には川らしい川をもたないために水利には恵まれていない。春山地区に畑かん事業として昭和四十一年に二〇畝整備されたが、これは一部の利用で高度に利用されているとはいえない。しかし本町の高原台地の茶、野菜の振興には、肥培管理、降灰対策上水は不可欠の要素となっている。

この解決のために、長期計画の中でダムの建設をして

農業用水の確保を図ろうと、昭和五十七年四月から調査がはじまり、既に一応の調査が終わっている。

3 工業用水

本町内で現在多量の水を必要とする企業は一工場で、この工場は深井戸による自給体制をとっている。他の工場は生活用水程度の水の使用量であり、町簡易水道からの給水程度で事足りている。水資源不足のため本町では水を多量に使用する企業の誘致は不可能だが、飲料水とともに工業用水は今後大きな課題として、解決を迫られているといつてよからう。